

道

2021・8・18

通信 No 1648



柚子

夏の朝は散歩で始まる。

緑の芝生が広がる根岸森林公園は、私のお気に入りのコースだが、8月のある日公園への坂道と階段が急に億劫に感じられて足が向かなくなった。

それまでは毎朝公園を一周して、再会した歌友達と数曲歌うのがとても楽しかった。足、腰が痛いわけでもなくなぜなのか自分でも戸惑ったが、やはり暑さのせいと自分に言い聞かせた。

公園行きをやめると町中を歩くことになる。「車の通る道なんて」と敬遠していたが、歩き始めると違う魅力があるのに気づいた。

家を出るのは5時前、東に向かう。車はまだほとんど通らず通りの真ん中を歩きたいと思うほど広く感じられる。町はまだ眠りから覚めずに静かな風景が広がっている。空を見上げれば雲は朝日をとらえてその輝きを徐々に増している。行く手の空は鮮やかな茜色に彩どられ、刻々と姿を変えてゆく。目が離せない。

昔、山でのご来光には何度も感激したが、町での日の出の美しさに改めて魅了された。マンション建設現場の2基のクレーンが空に向かって伸びている。

両手を高く掲げて太陽を招いているようだ。一瞬の間に日の光がクレーンの先端をとらえキラリと反射した。

道はこのあたりからゆるい上りになり、その坂の頂きにジョキングの人影が小さく見える。向かい側の歩道には、トイプードルを連れて西に向かう人もいる。

日が射してきた。日の出前のドラマも終わりを告げる。

間門の交差点に着いた。ふりかえると根岸線のガードとそれに続く家並み、目を上げると空に浮いているような富士山が望めた。

今日は良い日になりそうだ。

アルト 菅野明子

同行二人(どうぎょうににん)の旅

その③

第1番 霊山寺(りょうぜんじ)

鳴門市にあって遍路が始まる発願の寺。その後私達は無事「結願(けちがん)」を果たして最後にお礼参りで再びここを訪れた。第一次世界大戦後、ドイツ兵捕虜がこの付近に收容され、彼らの手によって日本における「第九」初演奏が行われた。それを記念してこの寺の近くにドイツ館が建てられている。

第6番 安楽寺

温泉山という山号が示す通り、かつてここには諸病に効くという温泉が湧いていた由。その名残でこの宿坊にはラジウムなどを含んだ風呂があり、私達も第2夜とまったが中々気持ち良かった。

夜、お勤めのあと写経に挑戦する。